

N響スペクタクル・コンサート

<放送> Eテレ 4月26日(日) 後3:00~4:30



イメージ

1926年に結成されて以来、日本を代表するオーケストラとして活動してきたNHK交響楽団が、「N響スペクタクル・コンサート」で、初めて本格的な映像技術とのコラボレーションを行う。このコンサートは、NHKエンタープライズ創立30周年を記念し、NHKホールで3月に開催される。

今回披露されるのは、クラシックファンのみならず、多くの人が一度は耳にしたことのある選りすぐりの名曲の数々。大編成のオーケストラの楽器群に加え、合唱やパイプオルガン、そして客席やバルコニーにも演奏者が配置され、荘厳な音の世界が作り出される。通常のコンサートでは味わうことのできない、クラシック音楽の魅力をお届けする。

- 第1部** 戴冠式行進曲「宝玉と王のつえ」(ウォルトン)
組曲「水の上の音楽」から(ヘンデル)
交響組曲「シェエラザード」から「海とシンドバッドの船」(リムスキー・コルサコフ)
交響詩「ローマの松」から「ジャンニコロの松」「アッピア街道の松」(レスピーギ)
「リュートのための古風な舞曲とアリア」から「シチリアーナ」(レスピーギ)
歌劇「トスカ」から テ・デウム(ブッチェニ)
- 第2部** バレエ組曲「火の鳥」(ストラヴィンスキー)

第1部は“地球からの贈り物”をテーマに、自然の映像や現代アートがステージを彩る。世界的な現代アート作家・名和晃平がこのコンサートのために巨大なオブジェを制作。映像や現代アートそしてオーケストラが奏でる音楽がコラボレーションしたステージをお楽しみいただく。

第2部では、ストラヴィンスキー作曲のバレエ組曲「火の鳥」の演奏にあわせて、音楽と映像が一体となったステージを披露する。永遠と復活・再生の象徴である“火の鳥”が、宇宙の誕生から地球の未来へといざなう壮大な物語を、最新の映像技術を駆使して表現する。

(c)Martin Richardson



尾高忠明

【出演】

尾高忠明(指揮)
NHK交響楽団(管弦楽)
妻屋秀和(バス)
新国立劇場合唱団(合唱)
【司会】
久保田祐佳アナウンサー

Photo Nobutada OMOTE | SANDWICH



名和晃平

1975年大阪府生まれ。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程(後期)彫刻専攻修了。独自の「Cell」という概念を機軸に様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を拓ける。近年では、自身がディレクターを務めるクリエイティブ・プラットフォーム「SANDWICH」において、アート/建築/デザインなど多岐に渡る活動を行う。